

【源義経公東下り行列】

令和最初の 平安絵巻

5月3日、初夏の陽気を思わせるような天候の中、「源義経公東下り行列」が行われ、町内には大勢の見物客が詰め掛けました。華やかな衣装に身を包んだ総勢93人の時代行列は、毛越寺から中尊寺までの道のりを悠然と練り歩き、沿道に幾重にも連なった見物客の声援を浴びていました。



源義経の東下り伝説

平安時代末期、兄・源頼朝と弟・源義経が黄瀬川で対面を果たす。その後義経は一ノ谷から屋島、壇ノ浦と連戦連勝を重ね、ついに平氏を追討し、義経の名声は一躍世に高まった。しかし、頼朝は大功を立てた弟の存在に脅威を抱き、義経追軍の手を回す。義経主従は、野に伏し、山に隠れ、安宅の関を越え、懐かしの山河広がる奥州平泉へとたどり着く。そして落ち延びてきた義経を、藤原秀衡らは温かく出迎えた。